

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症の診断基準 2020 の策定

研究分担者 小林 邦久 学校法人福岡大学 筑紫病院 教授

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症(Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV) は、2008 年わが国の心臓移植症例より見出された新規疾患単位である。中性脂肪が心筋と冠動脈に蓄積する結果、重症心不全・不整脈・冠動脈疾患をきたす難病である。我々は2009 年から本疾患に対する検査法・診断・治療について研究をおこなってきた。本年度においては診断基準検討委員会をたちあげ、今まで蓄積された知見に基づき検討を重ね、「TGCV 診断基準 2020」を作成した。また本診断基準を英文論文として報告した。

A. 研究目的

原因不明の難病である TGCV の診断基準を最新の治験をもとに改訂し、早期診断・早期治療につなげて「予防・健康づくりに取り組み強化による健康寿命の延伸」を目的とする。

B. 研究方法

2020 年 5 月 9 日に TGCV 診断基準検討委員会を設立し、TGCV に関する論文および学会報告を収集し解析して、メール・Web 会議によって討議をおこない 2016 年に日本医療研究開発機構 TGCV 研究班が定めた旧診断基準を改訂した。

(倫理面への配慮)

論文・学会報告をもとに検討したこと  
から倫理面の問題は存在しない。

C. 研究結果

「TGCV 診断基準 2020」においては必須項目を 3 項目、大項目を 3 項目設定し、

必須項目・大項目をそれぞれひとつ以上満たす場合を確定診断とし、必須項目をひとつでも満たす場合を疑診とした。作成した改訂診断基準を厚生労働省に報告し、英文論文として投稿した。

D. 考察

「TGCV 診断基準 2020」の必須項目は長鎖脂肪酸代謝障害、あるいは心筋への中性脂肪沈着という本疾患の本質的な病態をあらわすものである。一方で旧診断基準において重視されていたびまん性動脈硬化については客観的な評価のための画像集などの作成が必要とされ、必須項目からは除外された。

E. 結論

「TGCV 診断基準 2020」を作成し、英文論文化した。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

Kobayashi, K., et al. The diagnostic criteria 2020 for triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. *Annals of Nuclear Cardiology*. 2020, 6(1), 99-104, doi.org/10.17996/anc.20-00131

2. 学会発表

adipose triglyceride lipase の変異により核移行を認めた中性脂肪蓄積心筋血管症の 1 例, 小林邦久, 第 93 回日本内分泌学会学術集会, 2020/7/20-31, 国内, 口頭 (Web)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし